

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立西中島幼稚園

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園の目標は「心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる」、目指す子ども像は「明るく、元気な子ども」「考える子ども」「思いやりのある子ども」である。それを基に園内の身近な環境を通して、興味や関心をもち、好奇心や探求心が育まれるように教材研究を行い、環境を工夫し、心豊かに活動できるように教職員が連携して保育を進めていく。
- コロナ禍であったことも影響し、人との関わりが希薄な幼児が多く、自分の思いを通そうとする気持ちが見られる。自分のことも大切であるが、友達、家族、教職員、地域の方等様々な人のことを大切に思う気持ちが育つように教職員も一人一人の幼児の実態に応じて援助を行っていく。
- 幼稚園での幼児の姿や、育ちを保護者や地域の方、未就園児の保護者へ積極的に発信し、保育実践を伝え、公立幼稚園の保育をアピールしていく。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、安全な生活ができるよう、子どもに必要な行動や態度を指導している」
- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「子どもは、自分も相手も大切にしようと思う気持ちが育っている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、遊びを中心に、実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」
- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「子どもは、身近な環境に関わって遊ぶことを楽しんでいる」
- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、子どもに基本的な生活習慣が身に付くような指導を行っている」

【学びを支える教育環境の充実】

- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、子どもの興味や関心を高めるような指導を行っている」
- 7年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、子どもの様子や教育活動について分かりやすく伝えている」

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、安全な生活ができるよう、子どもに必要な行動や態度を指導している」
- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「子どもは、自分も相手も大切にしようと思う気持ちが育っている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、遊びを中心に、実体験を大切にされた教育活動に取り組んでいる」
- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「子どもは、身近な環境に関わって遊ぶことを楽しんでいる」
- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、子どもに基本的な生活習慣が身に付くような指導を行っている」

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、子どもの興味や関心を高めるような指導を行っている」
- 今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。
「幼稚園は、子どもの様子や教育活動について分かりやすく伝えている」

3 本年度の自己評価結果の総括

- 令和7年度の幼稚園運営の全体を通して、目標達成に向けた3つの視点において着実な成果が見られた。令和7年度末に実施した保護者アンケートでは、各項目において肯定的回答が90%以上を占めていた。これらの結果から本園の中期目標は概ね達成できたと評価できる。
- 安心・安全な教育の推進については、子どもの発達段階やこれまでの反省を活かし、段階的な避難訓練を実施し、子ども自ら身を守ろうとする力が育ってきた。幼児一人一人の実態に応じた援助として、写真や絵、ペープサートなどを活用し、視覚的にわかりやすい表示を工夫した。その結果、配慮を要する子どもだけでなく、クラス全体の子どもにとっても有効な支援となった。
 - 未来を切り拓く学力・体力の向上については、就学前教育カリキュラムを活用することで、年齢に応じた発達段階を踏まえた保育のねらいや内容を明確にし、見通しをもった実践につながることができた。さらに、季節や行事に応じた教材研究を重ね、環境や働きかけを工夫したことで、子どもが意欲的に遊ぶ姿が多く見られた。生活習慣については、幼児の実態や時期に応じた、保健指導を行い、楽しみながら参加する中で、健康な生活習慣の定着につながった。
 - 学びを支える教育環境の充実については、教師の資質向上を目指し、園内研究会を年に5回行い、討議会を通して、互いに学び合う体制を整えた。また、幼児の育ちや教育内容について、ホームページやドキュメンテーションを活用し、保護者や地域に向けた発信に主体的に取り組んだことで、西中島幼稚園の教育への理解を深めることができた。

大阪市立西中島幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「幼稚園は安全な生活ができるよう、子どもに必要な行動や態度を指導している」</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「子どもは、自分も相手も大切にしようと思う気持ちが育っている」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
<p>取組内容①【安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>安全に対する話し合いや指導、避難訓練を行い、自分の身を自分で守ろうとする気持ちを育む。</p>	A		
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関と連携した避難訓練や交通安全指導を2回以上行う。 ・学校安全計画に基づき、安全に対する話し合いや、指導の機会を月2回以上設ける。 			
<p>取組内容②【豊かな心の育成】</p> <p>幼児一人一人の実態に応じた援助を行う。</p>	B		
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内委員会を月1回以上実施し、子どもの実態把握や援助について話し合う。 ・関係諸機関と連携するとともに、年に1回以上教職員が研修会に参加する。 ・保育にユニバーサルデザインを取り入れるよう年3回以上話し合いの場をもち、改善を行う。 			
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>			
<p>○令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全な生活ができるよう、子どもに必要な行動や態度を指導している」の項目において、「そう思う」が93%、「だいたいそう思う」が5%であり、肯定的な回答をする保護者の割合が98%であった。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「子どもは、自分も相手も大切にしようと思う気持ちが育っている」の項目において、「そう思う」が79%、「だいたいそう思う」が17%であり、肯定的な回答をする保護者の割合が96%であった。</p>			
<p>取組内容①</p> <p>・年間計画に基づき避難訓練や安全指導を以下の通り実施した。</p>			
月	想定	ねらい	子どもの姿
4月	火災	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の意味を知る ・避難の仕方を知る 	4・5歳児は、非常ベルを聞き、落ち着いて避難していた。3歳児は実際に避難する姿を見て、避難訓練のイメージをもつことができた。
5月	火災	<ul style="list-style-type: none"> ・火災から身を守る方 	「お・は・し・も」のルールを守り安全に避難で

		<ul style="list-style-type: none"> 法を知る 放送や指示を聞き安全に避難する 	<p>きた。</p> <p>3歳児は、初めての避難訓練であったが、教師とともに落ち着いて参加できた。</p>
6月	地震	<ul style="list-style-type: none"> 地震の時の身の守り方や避難の仕方を知る 	<p>防災頭巾を被ることに手間取る子どももいたが、教師の指示を聞き、落ち着いて避難できていた。</p>
7月	防犯指導	<ul style="list-style-type: none"> 不審者が侵入した時の合図を知る 	<p>紙芝居を通して、知らない人にはついていかないことや実際に幼稚園に不審者が侵入してきた時の合言葉を知ることができた。</p>
	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> 正しい交通ルールを知る 	<p>信号に関心をもち、どのように横断歩道を渡るのかを理解して渡っていた。</p>
8月	地震	<ul style="list-style-type: none"> 指示を静かに聞き、近くの教師のところへ集まる 	<p>「お・は・し・も」の約束を守り、保育室が異なる場合でも落ち着いて安全に避難できた。</p>
9月	引き渡し訓練	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への引き渡しを行う 	<p>普段とは異なる降園方法であったが、子どもたちは落ち着いて保護者を待ち、保護者も真剣に対応されていた。</p>
10月	火災 消防署立ち合い	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で遊んでいる時を想定して行う 消防署より防災指導を受け、教職員も子どもも防犯意識を高める 	<p>消防車だけでなく、車内に積まれている器具にも関心をもち、質問をする姿が見られた。指示を聞いて落ち着いて行動することができた。</p>
11月	不審者	<ul style="list-style-type: none"> 園内に不審者が侵入した時の避難の仕方を知り、避難する 	<p>普段とは違う避難の仕方ではあったが、落ち着いて避難していた。</p>
12月	地震 津波	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びの最中に地震が起きた場合の避難の仕方を知る 地震・津波時の行動の仕方を再確認する 三次避難の場所を知る 	<p>絵カードを使用し、分かりやすく視覚的に伝えながら、避難の流れを知らせ、小学校の校庭まで避難し、三次避難があることを知る機会となった。</p>
1月	地震 津波	<ul style="list-style-type: none"> 大地震による津波について知る 三次避難場所に移動することを覚える 	<p>津波が来た時には高い所へ避難しなければならないことを知り、小学校の3階まで避難し、安全への意識を高めていた。</p>
2月	火災 予告なし	<ul style="list-style-type: none"> 放送や近くの先生の指示をしっかりと聞く 職員の対応力向上を図る 	<p>事前予告なしの避難訓練であったが、遊んでいたのをやめてベルの音や放送を聞き、自分の近くにいる先生の所にすぐに集まる姿が見られた。ハンカチを鼻と口に当て、煙が入らないように守っていた。</p>
3月	地震 予告なし	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の守り方を考えて行動する 	<p>実施予定である</p>

・1学期の終業式に淀川警察署の協力を得て交通安全指導を実施し、子ども達は、信号機を使った実技を通して、横断の仕方を学んだ。保護者の方には、ヘルメット着用の大切さや、子どもの目線・視野が大人に比べて狭いことなどについて講話があり、安全意識向上につながった。降園時には、横断歩道で右左を確認して降園する姿が見られ、学びが実践に生かされていた。

- ・淀川消防署や淀川警察署など専門機関と連携し、子どもの発達段階やこれまでの反省を踏まえた、段階的な避難訓練を実施してきたことで、子どもは自ら身を守ろうとする力が育ってきた。また、専門家の助言は、教師の安全意識を高めることにつながった。
- ・学校安全計画を活用し、子どもの実態に応じて園庭での遊具の遊び方や製作活動時の用具の扱い方について継続的に指導してきた。その結果、子ども達の安全に対する意識が高まった。また、園庭の遊具の遊び方について保護者にも啓発したことで、園庭開放時にもルールを意識して遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・また、園外保育を重ねる中で、階段の上り下り時のルールや交通ルールの理解が深まり、安全に対する意識が高まった。自分の身を守るだけでなく、友達にも知らせ合いながら安全に行動しようとする姿が育ってきた。

取組内容②

- ・年4回外部講師を招いて園内委員会を実施し、個々の援助の在り方について話し合う時間をもつことができた。全教員で共通理解できたことで、園全体で一貫した支援を行い、子ども達が安定して過ごすことができるようになってきている。
- ・巡回指導や府立支援学校の地域支援を活用し、個々の実態に基づいた支援について多様な視点から助言を得た。それらを園内で共有することで、教員の専門性の向上と子どもへの具体的な支援の充実につながった。
- ・特別な支援を必要としている子どもだけでなく、全ての子どもに対して教師が個々に寄り添った支援を行ってきた。その積み重ねにより、子ども同士が自然と声を掛け合い、活動に誘う姿も見られるようになってきた。生活発表会では、友達の良さを認め合いながら、クラスの一員として自覚をもって活動に取り組む姿につながった。
- ・個人懇談や園庭開放時などの機会を通して、保護者と子どもの実態や課題について丁寧に共有し、共通理解を深めてきた。必要に応じて、区役所や関係機関、学校とも連携を図り、切れ目のない支援につなげている。
- ・各クラスにおいて、写真や絵、ペープサートなどを使い、視覚的にもわかりやすいように環境構成を工夫した。その結果、配慮を要する子どもだけでなく、全ての子ども達にとって分かりやすく、安心して活動できる環境づくりにつながった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・来年度は園児の半数近くが入れ替わることを踏まえ、一人一人の実態に応じた避難訓練の在り方を検討し、家庭とも連携しながら、子ども達が安心して過ごせる園づくりに努めていきたい。

取組内容②

- ・多忙な時期でも、短時間でのケース会議や園内委員会を定例化し、全職員が日常的に相談、共有できるようにしていく。
- ・今後も引き続き保護者や関係諸機関と連携しながら、個々の実態に沿った援助を行うとともに、園で行っている取り組みについて、保護者へ情報を発信していく。

大阪市立西中島幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「幼稚園は、遊びを中心に、実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「子どもは、身近な環境に関わって遊ぶことを楽しんでいる」</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「幼稚園は、子どもに基本的生活習慣が身に付くような指導をしている」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>幼児の興味や関心、発達を捉え、実体験を基に遊びを中心とした保育実践を行う。 (就学前教育カリキュラムの活用)</p> <p>指標 ・毎週、幼稚園教育要領や就学前カリキュラムを活用し、教育的意図をもった働きかけを意識し、週案を立て、保育実践を行う。 ・月に1回以上、教師間で保育を振り返り、幼児の育ちを明確にしたり、今後の育ちの見通しをもったりする。</p>	A
<p>取組内容②【幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>身近な環境に関わって遊ぶことを楽しむ幼児を育めるよう、環境や働きかけを工夫しながら幼児理解を深める。</p> <p>指標 ・幼児の好奇心や探究心が育まれるよう年10回以上教材研究を行い、環境を工夫する。 ・実践記録の検討会を年5回以上行い、幼児理解を深め、教師の資質向上を図る。</p>	A
<p>取組内容③【健やかな体の育成】</p> <p>健康な生活習慣を知り、身に付くようにする。</p> <p>指標 ・幼児の実態や時期に応じた保健指導を月1回実施する。 ・年3回以上保健指導の内容や幼児の様子を保護者に啓発する。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は、遊びを中心に、実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」の項目において、「そう思う」が93%、「だいたいそう思う」が7%であり、肯定的な回答をする保護者の割合が100%であった。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートの「子どもは、身近な環境に関わって遊ぶことを楽しんでいる」の項目において、「そう思う」が93%、「だいたいそう思う」が7%であり、肯定的な回答をする保護者の割合は100%であった。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートの「幼稚園は、子どもに基本的生活習慣が身に付くような指導をしている」の項目において、「そう思う」が95%、「だいたいそう思う」が5%であり、肯定的な回答をする保護者の割合は100%であった。</p>	
<p>取組内容①</p>	

- ・週案や研究保育指導案作成時に、就学前教育カリキュラムを活用することで、保育のねらいや内容を明確にし、先の育ちや見通しをもつことにつながった。また、クラスだよりなど保護者向けの手紙を作る際にも活用することで子どもの育ちや保育のねらいなどを再確認することができた。また、子ども達の育ちを保護者に伝えることが、保育の振り返りの機会となり、自分達の学びとなった。
- ・研究保育に向けて子どもの実態や今後の遊びの見通しなどを教師間で話し合っ進めることができ、保育の充実につながった。
- ・就学前教育カリキュラムの研修会に参加し、教師間で伝達して学びを深めた。

取組内容②

- ・自然環境を大切にしながら遊びを楽しめるよう、色水、泡、水鉄砲、小麦粉粘土、虫探し、泥の遊びについての教材研究を行い、子どもの興味・関心が深まるように環境構成を工夫した。
- ・2学期には園内で芋掘り後のツルを活用し、綱引きや縄遊び、リースづくりへと活動を広げた。また、園外保育で見つけたドングリをままごと遊びに取り入れる等、秋の自然を生かした教材研究を行った。
- ・3学期は氷を虫眼鏡で観察したり、自分達で氷をつくったり、プールにできた氷の様子を見に行ったりする活動を通して、子ども達の好奇心や探究心の高まりが見られた。さらに、生活発表会の大道具・小道具や誕生会のプレゼント、ひな人形の製作等についても教材研究を重ねたことで、子どもが主体的に遊びや製作を楽しむ姿につながった。
- ・5月、7月、10月に実践記録の検討会を実施し、9月と1月には園内研究保育のドキュメンテーションの作成を行った。幼児の姿をもとに話し合い、読み取る機会を重ねることで教員の幼児理解を深めることができた。

取組内容③

- ・幼児の実態や時期に応じて、健康な生活習慣が身につくように保健指導を行った。手洗いチェッカーを活用した実験やICTを取り入れる等、幼児が体験を通して学べる指導内容にしたことで、分かりやすく、楽しく参加できる活動となり、望ましい生活習慣の定着につながった。
- ・保健指導内容をまとめた〈ふりかえりしーと〉の配布や、3学期始業式で1年間の指導内容を保護者に伝える機会を設けたことで、家庭との共通理解を深めることができた。冬休みに実施した〈冬休み健康生活カレンダー〉に寄せられた保護者からのコメントには、「幼稚園で習った手洗いの仕方です。」とあり、家庭においても継続した実践につながっている様子が見ええた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・次年度も引き続き、就学前教育カリキュラム、大阪市幼稚園参考教育課程や幼稚園教育要領を積極的に活用しながら、教育活動を推進する。
- ・今年度は職員の異動が多く、共通理解の形成に重点を置いた一年であった。今後はその成果を基盤として、保育の意図や支援の具体を十分にすり合わせ、組織としての実践力を高めていく。

取組内容②

- ・ドキュメンテーションの作成を継続し、保育内容の振り返りを行うことで、教員の資質・専門性の向上につなげていく。

取組内容③

- ・学期に1回、保健指導の内容や幼児の育ちをまとめた〈ふりかえりしーと〉を保護者へ配布し、園と家庭との連携を深めながら、生活習慣の定着につなげていく。

大阪市立西中島幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「幼稚園は、子どもの興味や関心を高めるような指導を行っている」</p> <p>○今年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 「幼稚園は、子どもの様子や教育活動について分かりやすく伝えている」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上を図り、実践につなげる。</p> <p>指標 ・年間計画を立て、園内研究会を年5回以上行う。 ・保育内容について、月1回話し合い、共通理解したり学び合ったりする。</p>	A
<p>取組内容②【家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 幼児の育ちや教育活動について、保護者や地域に発信する。</p> <p>指標 ・幼児の育ちや教育内容について、写真や掲示物等を活用しながら、保護者に年10回以上発信する。 ・園の活動の様子や、教育内容、未就園児活動について、地域にホームページを活用して年20回以上発信する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○令和7年度末の保護者アンケートの「幼稚園は、子どもの興味や関心を高めるような指導を行っている」の項目において、「そう思う」が88%、「だいたいそう思う」が12%であり、肯定的な回答をする保護者の割合は100%であった。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートの「幼稚園は、子どもの様子や教育活動について分かりやすく伝えている」の項目において、「そう思う」が90%、「だいたいそう思う」が10%であり、肯定的な回答をする保護者の割合は100%であった。</p> <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期は研究部の研究保育を本園で行い、園全体で保育内容や環境構成について話し合う機会を多くもつことができた。また、他園の先生方や小学校の先生方から多くのご意見をいただき、学びを深めることができた。 ・年間計画に沿って9月・11月・12月・1月・2月に園内研究保育を実践し、意見交換を通して、出された課題や工夫を保育に取り入れることで、教員一人一人の資質向上につながった。 ・行事の内容や各クラスの遊びについて月1回話し合い、共通理解を図ったことで、園としての方向性をそろえながら保育を進めることができた。 ・大阪市の教育活動の発信に向けて、教員採用セミナーにおいて実践発表やディスカッションを行った。その過程で養護教諭の在り方や、職務内容を改めて見直すことができ、新たな気づきや学びを得る機会となった。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けて、各クラス、写真を用いたドキュメンテーションを月1回作成し、月末の保育室降園の際にはそれを用いて、幼児の育ちや教育内容について具体的に発信することができた。ま

た、行事の前日に保育室降園を行い、行事に向けた取り組みやその過程における子どもの成長について、丁寧に伝える機会を設けた。生活発表会においては、劇遊びの題材選択の意図やねらいを保護者に伝え、子どもの育ちや観覧する際の保護者の視点を明確にして発信した。これらの取組により、保護者が保育活動や子どもの育ちをより深く理解する機会となったと思われる。

- ・保護者や地域に向けて、ホームページに園の活動の様子や教育内容、未就園児活動について、発信することができた。未就園児活動の際に、未就園児保護者から「ホームページを見ている」という声があり、継続的な情報発信が園の教育への理解や信頼につながっていることがうかがえた。また、学校協議会では、幼稚園教育を分かりやすく発信するために、運営の計画に沿ったドキュメンテーションを作成し、発信した。
- ・クラスだよりは、日々の子どもたちの姿や遊び、育ちについて保護者に伝えることで、子どもの育ちの共有や幼児教育の理解につながったのではないかと思われる。
- ・1・2学期の終業式後の保護者会において、文部科学省の「遊びは学び、学びは遊び」の動画を保護者に紹介するとともに、本園での子どもの姿や育ちをスライドショーで提示し、遊びを通した学びについて理解を深める機会とした。
- ・各行事前等に、園長の視点から、子どもの育ちや行事の意義、捉え方について保護者に伝え、行事を通して育まれる力を共有した。

次年度への改善点

取組内容①

- ・次年度も園だよりや行事予定表にも園内研究会の日程を明記し、計画的に実施することで、教職員の資質向上に努める。
- ・定期的な協議日を予め設定し、行事予定表に位置付けることで、計画的に話し合いの時間を確保する。加えて、必要に応じて声をかけ合い柔軟に話し合える体制を整えていく。

取組内容②

- ・今後も教職員一人ひとりが、幼児の育ちや教育内容について、主体的に発信できるよう、ホームページやドキュメンテーションの活用を継続していく。
- ・行事期に更新が滞らないよう、行事の役割分担の際にホームページ更新の担当を明確にし、継続的で計画的な情報発信を行う。

